

善と整備

(一) 個人資料・情報資料を生かした、進路相談の実践と研究

(二) 学級指導（「進路の選択に関すること」）の授業研究を通じて、進路指導の実践と研究

(三) 生徒理解、自己理解に必要な諸調査・検査の実施と分析・活用の研究

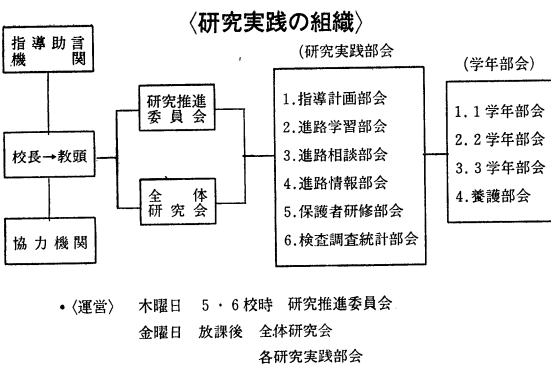
(四) 生徒の発達に即した保護者への働きかけの方法と実践

(五) 進路情報資料の収集・提供の研究。進路情報室の管理運営の研究

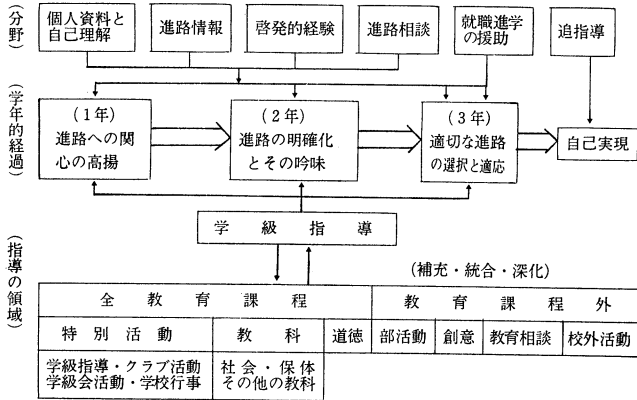
三 研究組織

研究を進めるに当たって、次の方針をもとに組織を決定した。

(一) 各実践研究部会を中心に研究を進



〈進路指導の全体構造図〉



めるが、研究推進委員会で各部会の連絡調整を図り、全体研究会で共通理解を図っていく。

(一) 学級指導の授業研究に当たっては学年部会を中心として実践し、効果的指導を積み上げて行く。

四 研究実践の内容

(一) 指導計画部会

進路指導が三年生だけにかたよったり、指導の場が学級指導だけにかたよ

ることなく、三か年を見通した一貫性のある発展的な指導ができるよう、また学校教育の全領域で行われるようにするため、指導計画の改善・整備に努めている。

進路指導の全体構造を次の図のようにとらえ、全体計画と個別計画を作成した。これらの計画の概要を述べると次のようになる。

① 基本的事項について

進路指導の基本的事項として、次の五項目を考え、それぞれについて、具体的な実践化への構えや方法を示したものである。

・教育目標との関連

・進路指導の目標

・進路指導の学年目標

・進路指導の方針

・進路指導の努力点

② 全体計画表について

「生徒への指導」「父母への指導」のそれぞれについて、月別・学年別に具体的な計画を表したものである。教師は、この全体計画表と、次に述べる個別計画を併用しながら、より効果的な指導ができるよう努めている。

③ 個別計画について

全体計画表にあげられている計画について、指導の時期や指導項目、方法留意点などを示したものである。

個別計画の内容は

・生徒への指導として

・学級指導における進路指導計画

・進路相談計画・検査、調査計画

・情報提供の計画
・観察計画
・各教科、道徳、学校行事における指導計画

・父母への指導

・保護者に対する指導計画

(二) 進路学習部会

進路指導は学校教育の全領域で行われるものであるが、それを集約的に行う場は学級指導である。そこで本校は学級指導（「進路の適切な選択に関すること」）の授業の充実につとめ、授業を通じて、生徒一人一人が能力・適性等を把握し、進路計画を立て、自己実現をめざす生徒の育成につとめている。

進路学習の題材を、三年間で十二に分け、その題材を更に四十四の題目に分け指導している。題材関連を示すと次の図のようになる。

実際の授業では、次の事を基本にして、指導を進めるようにしている。

① 指導過程の組み立て

事前指導―本時の指導―事後指導の流れとしてとらえ、特に本校では、事前指導を、生徒へ課題意識を持たせる場として重視し、作文・意見をまとめさせたり、調査・研究をさせたりしている。資料の作成に当たっては、生徒の直接参加を基本にしている。また事後指導を生徒の意欲化への援助として重視し、授業で使ったワークシートへ教師がアドバイスをしたり、進路相談による援助をしたりして、自己実